

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4292400050		
法人名	株式会社グループホーム湯之崎		
事業所名	おばま温泉グループホーム湯之崎（ユニットえびす）		
所在地	〒854-0514 雲仙市小浜町北本町字湯之崎905番地32		
自己評価作成日	平成26年11月18日	評価結果市町村受理日	平成27年3月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	平成26年12月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・入居者様の生活の様子から体調などの変化に気づける様毎日の記録に努めている ・通院（リハビリ）も定期的にスケジュールを組み、健康管理を行っている ・地域の行事などには、可能な限り外出・参加を行っている
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は温泉地に位置し、事業所内の浴室では毎日温泉が楽しめる。年を重ねるごとに地域との繋がりが強くなっており、隣の旅館とも「お互い様」の関係を築いている。また、自治会長がキーパーソンとなり地域との良好な関係が出来ており、障害者支援施設との連携も構築している。運営推進会議の内容が密であり、記録もわかりやすく、議事進行が誰でもわかるよう記述していることは事業所の優れた点といえる。中でも肺炎球菌ワクチンの話題から接種に繋がり、日々の介護に活かした事例は運営推進会議の功績と考えられる。看取りの支援について家族の意向をアンケートで聞き取り、元気なうちに話し合う必要性を謳っている。最期までここで看たい、ゆっくり過ごして欲しいという気持ちから職員がエンゼルケアの研修受講に意欲的であり、看取りのケアプラン作成など最期まで本人に寄り添う支援に努めている事業所である。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 おばま温泉グループホーム湯之崎（ユニットえびす）	ホームの基本理念があり、玄関・事務室内に掲示されている	開設当初からの理念は、玄関やホーム各箇所に掲示している。全体会議では、理念に立ち戻り、具体的な支援について話しており、利用者の自立や地域との関わりを大切にする支援に繋がっている。但し、非常勤職員へ向け話す機会がない。	職員の統一したケアに向けて、理念に込めた思いや支援の具体化を非常勤職員を含め全職員で話し合い、質の向上に繋げることが望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	温泉街にある為、ホームの餅つきなどの行事に加え、地域での祭りなどにもよく出向いている 又、祭りの神輿やパレードなどはホーム駐車場前を通るので、毎回必ず出迎えていたところ、ホーム前で回ったり舞ったりして下さる様になった	自治会に加入し、地域情報を得ている。日頃より自治会長の訪問があり、職員も地域一員として関わっている。地域行事を利用者も一緒に見物したり、事業所のイベントに地域住民が訪れたり、交流場面が多い。餅つきは近所へ利用者と共にチラシ配りに出掛け、顔繋ぎとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生や障害者の職場体験を受け入れたり、地域の行事に積極的に参加し、入居者様・職員の様子を見て頂いている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様の近況報告・地域行事の日程確認やその際の協力を求めたり、参加くださった方の意見から実際に肺炎球菌ワクチンの接種へと繋がった入居者様もいる	年6回規程メンバーで開催している。状況や行事の報告後に参加者は意見交換を行っており、意見を出しやすい雰囲気を心がけている。保健師や行政と住民との情報交換の場としても活かしている。参加者の質問から、肺炎球菌ワクチンについて知識を深め、利用者の接種に繋がっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	雲仙市地域包括支援センター職員の方の訪問があったり、協力を頂きながら連携を図っている 又、地域のケア会議には極力出席し、少しでも多くの方と顔見知りになる様努めている	利用者に関する申請や相談、事業所運営に関する質問など行政関連窓口へ出向いたり、電話で連絡を取り、連携体制を整えている。包括支援センター職員の訪問も頻繁にあり、常に最新情報を交換している。また、地域ケア会議に参加し、事例検討などの研修に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者様の状態により離床センサーを使用させて頂いているが、出来る限り見守りを行い制限しない様努めている 又玄関の施錠は夜間のみ行っている	施設長は身体拘束になる例を職員会議で説明しており、ずっと座らせる事や薬の過剰投与も拘束であることを伝えている。外部研修の受講後は会議で報告し、職員間で共有し支援に役立てている。日中は施錠しておらず自由に入出入りできる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃より言葉遣いには注意している 又、月例ミーティングでも指導を行っている		

おばま温泉グループホーム湯之崎（ユニットえびす）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を受けた者が研修報告を行っているが、全員が周知するには至っていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約は理解・納得を得た上で行っている 又、必要に応じて話し合いの場を設ける様にしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望がないか伺う様にはしているが、遠慮して言われないご家族様もいらっしゃる様思う	契約時に重要事項説明書を基に窓口を説明しており、家族の訪問時には、声を掛け気軽に話せる雰囲気となるよう努めている。聞き取った内容は記録し共有して検討している。これまでに連絡の不行き届きで家族から意見が出ており、謝罪するとともに今後の対策を検討し改善策を報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度のミーティングなど意見を出せる場を設けている 現在不具合のある設備・備品等の報告や申し出はあるが、運営に関する意見とまではいえない	昨年、全職員と個人面談を行い、資格取得の目標などを聞き取っている。毎月のミーティングでは職員が意見や提案を出しやすい場となっており、災害対策では避難誘導後の居室に再度立ち入らないための工夫として安心カードを作成する提案を反映し役立てている。ただし、全職員の情報共有について、申し送り体制を模索中である。	利用者・家族の重要な情報が全職員で共有できるように、今後も検討を重ね、申し送り体制の確立に期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や勤務状況は把握できており実際の給与や賞与に反映しているが、具体性のある給与水準や給与規定があるわけではないので、各々が全職員の中でどう評価されているかは解らないかもしれない		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会の参加呼びかけは常に行っているが、先ずは職員一人ひとりの意識を高める必要がある事は否めない ケアの力量のみならず、一社会人・組織に属する一職員としての自覚を全員が持つ事の重要性を知らしめる事も今後の課題		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム連絡協議会の事例検討会や半島のグループホーム連絡協議会他様々な研修会で、他事業所の方の意見等を聞く事の出来る交流の場となっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の生活に基づいた生活を送って頂く様 努め、不安を取り除く為必要に応じご家族様 へ協力をお願いしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前や介護計画作成時にご要望などお尋ねし ている 又介護計画作成後はご家族様へ都度 説明行っているが、不安に思われている事等を気 軽に相談をして下さる環境作りの努力が必要かと思 う		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」 まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も 含めた対応に努めている	ご本人様・ご家族様のご要望を念頭に置いた 上で、必要と思われる支援を検討し、ご家族 様へ相談を行った上で対応を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮ら しを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみや調理の下拵えは入居者様から 声をかけて下さり手伝って下さる 又、普段手 伝いが困難な方にも職員と一緒に作業して頂 きやりがいを持って頂ける様努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人 と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関 係を築いている	職員では入居者様の安心感等の支援には限 界もある為、ご家族様へ相談し協力をお願い して、お力添えを頂いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との 関係が途切れないよう、支援に努めている	外出中に会われたり面会に来て下さったご家族 様や知人の方を、入居者様が分からなかった 時や会話が噛み合わない時などは、職員が間 に入りフォローを行っている	利用者は地域の人が多く、馴染みの商店まで買 い物に出掛けたり、行き付けの美容室には家族 や職員が送迎している。家族と法事に出掛けたり、 自宅へ帰宅することもある。利用者の希望に 沿って、自宅の仏壇へお参りできるよう職員が同 行支援している。近所の人や友人などの訪問も多い。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず 利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努 めている	お互いに声を掛け合い相手の苦手な事を手伝 ったり、職員を呼んで下さったりと、支え合っ ておられる 落ち着かれない方が孤立しない為の努力 や工夫は職員側に必要であり、今後も課題である		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されたら洗濯等の支援行い、ホームや入院先で亡くなられた場合、通夜葬儀には職員一同で参列し、何か困った事あればいつでも相談して頂ける様声かけを行っている 又開設10周年記念を兼ねて開催した敬老会に退去された入居者様のご家族様を招待させて頂き、大変喜ばれた		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様のお話を傾聴しながらよく観察し、信頼関係を築ける様努力している お一人お一人の意向全てを把握し対応するのは充分とは言えないが、できる限りご本人様本位に近づける様努力している	利用開始時に聞き取った利用者が希望する暮らしを基本に、日常を過ごせるよう支援している。また、職員は日頃の利用者との会話を重視し、その中から思いを汲み上げている。申し送りや個人記録、会議などで情報を共有し、全職員が利用者の思いを理解できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際生活歴等を尋ねている 面会に来られたご家族様に尋ねたりして馴染みの物を持参して頂く等し、なるべくその方の自宅での生活に近づける様努力している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェック・入浴時の身体の観察・食事摂取量・表情等、観察行い、特変ある時は申し送りにて報告できる様にしている お一人お一人のできる事/できない事を見極め、できる事は続けて頂ける様努力している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時には入居前に関わりのある方々から聞き取りを行い、現在の生活にとって必要不可欠な事から優先順位を決め暫定的に計画を作成 その後は月一度のミーティング時お一人お一人のその時の状態を職員間で話し合い、見直し、日々の介護に繋げているが、ご家族様が遠方の方もあり、綿密な話し合いが充分に出来ているとは言い難い	長期・短期の介護目標を作成し、3ヶ月毎に評価している。カンファレンスを毎月開催し、利用者の日々の様子や思い、職員の意見を基に話し合っている。更新時期に家族から要望を聞き、介護計画を作成し同意を得ている。但し、支援内容の実施状況を確認する資料がない。	カンファレンスでは、職員の意見を中心に支援内容を振り返りを行っているが、介護計画の支援内容を職員が日々実践しているか互いに確認できるよう記録方法の検討を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人日誌・ホーム日誌にその日の様子・観察した内容を記入している 又、受診の際は受診録に記入しており、お一人お一人の様子を日誌でも共有し、朝・夕の申し送りで報告を行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の気分転換のためのドライブや外出等支援行っている 又自治会との交流等も対応している ご家族様に困っている事をお聞きしたり、様々な行政の手続き代行を行ったり、その時々合った支援を心がけている		

おばま温泉グループホーム湯之崎（ユニットえびす）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	老人福祉センターでの暮会や食材の買出し等に一緒に外出して頂いたり、ご希望があれば通所リハや整骨院に送迎行っている 地域のイベントには出来る限り参加し、社会との交流を図れる様支援に努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	殆どの方が入居前より継続して受診されている 入居後もご本人様・ご家族様の希望通りに対応している かかりつけ医との連携もできており、ご本人様の症状に合った医療が受けられる様支援している	かかりつけ医の継続受診は、職員が同行している。事業所には協力医の往診があり、協力医が主治医でない利用者も、緊急時などは対応してもらえるよう連携している。緊急時は、家族に連絡している。定期受診や薬等の内容は、毎月個別のホーム便りで報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	お一人お一人の体調の変化や情報を職員間で共有し、週に一度来設される訪問看護師に報告出来る様努めている かかりつけ医への報告は受診・往診時となる為職員間の連携をきちんと行い確実に報告出来る様努めているが、困難な場合は手紙等にて確実に報告行い適切な受診を受けられる様努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	近隣の病院への入院時はほぼ毎日お見舞いに行き病状をお聞きしている 遠方の場合も出来る限りお見舞いに行き、早期退院できる様医療機関との連携を図っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご家族様への説明はできている 看取りに関するアンケートを実施した事もあり、ご本人様・ご家族様の希望にできるだけ副える様にしている ホームで最期をと言われる方もおられる為、訪問看護・協力医と24時間連絡が取れる体制をとっている 終末期の教育の一環としてエンゼルケアの研修(OJT)を一度行ったがまだまだ不十分である	終末期・看取りに関する指針があり、利用開始時に説明しており、これまでに看取りの事例がある。利用者が元気なうちに、家族や利用者の意思を知るため、アンケートを実施している。状況に応じ、医師と家族との話し合いの場を設けており、職員も支援内容を把握し、研修を受講するなど支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルの活用、及び普通救命講習への参加を行っている 全職員が熟知できているわけではない為、定期的な訓練を行っていく必要がある		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、消防署協力の下避難訓練を行っている 又備蓄品も整えている 少しずつではあるが職員の備えに対する意識は高まっている様に思われる	年2回、利用者も参加して避難訓練を実施している。前回の反省点を活かした訓練内容となっており、各居室に安心カードと称する避難確認カードを掲示している。運営推進会議でも議題に上げ、訓練には自治会から参加がある。自然災害について、避難場所の確認や備蓄、地域との連携も整っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員が居室へ入る際は一声かけ、不安気な時は一緒に入室して頂いている ポータブルトイレを使用する方のP/Tには昼間はカバーをし、ご家族様面会時に出来るだけ目立たない様にしているが、安心感を得られる場合はそのまま設置させて頂きその代わり、匂いには充分気を配っている	トイレ誘導は小さい声で行い、着替えやトイレはドアを閉めて支援している。朝礼は事務所内で利用者に聞こえないよう配慮しており、個人記録などはイニシャルで明記するなどプライバシー保護に向けて工夫している。個人情報保護の観点から毎年職員に確認するなど努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・入居者様のトイレの希望ある時はすぐに対応できる様にしている ・外出希望にもできるだけ応じ、外出の提案をしてみてもその気になられたらお連れしたりしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・夜間休まれていない時等、入居者様から居室での臥床を希望された時は時間を決め休んで頂き余り長い午睡にならない様に注意している ・入居者様のご希望等も聞きつつ対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・外出の際には普段着とは違った服を着て頂いたり、ご家族様からの贈り物の衣類などを提案するととてもいい表情される ・洋服の下から肌着が出ない様身なりを整える様注意している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・メニューは一週間毎に作成し、なるべく入居者様のお好きな物をメニューに反映する様にしている ・一緒におやつ作りをして頂くレクリエーション等で楽しい時間を作っている ・調理の手伝いやテーブル拭き等に関わって頂いている	ユニットごとに献立を立てている。1日、15日は刺身の日として利用者の好物である刺身を提供したり、餅つきした餅は小さく切って安全に食べられるよう配慮している。花見には弁当を持参したり、行事の時には少量のビールを提供するなど利用者が食事を楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・なるべく偏りのない様なメニュー作りに努めている ・一品ずつ食べられる方が全てに手をつけられる様声かけやワンプレートにしたり工夫している ・少しでも多く水分摂取して頂ける様、様々な種類や好みの飲料をお出しする様にしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・口腔ケアは欠かさずして頂いている ・出来られない入居者様には介助行っている ・歯ブラシを噛まれる精神症状不安定な方には職員の手を噛まれない様注意しつつ、様々な道具を検討する等努力している		

おばま温泉グループホーム湯之崎（ユニットえびす）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・食事前・おやつ前はトイレ誘導を行っている ・必要に応じ見守り・半／全介助を行っている ・パッドはお一人お一人に合った物、時節等にも応じて、なるべく経済的にご家族様に負担がかからない様に努力している	個人日誌に排泄を記録しており、排泄が自立している利用者もいる。居室では夜間のみポータブルトイレを使用する利用者があり、職員が支援している。これまでにリハビリパンツから布パンツに改善した例があり、職員は排泄の自立の重要性を理解している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便遠のいている場合、便秘薬の調整を行い、同時に水分を多く摂って頂いたり入浴や軽い運動等促し、なるべく便秘しない様支援している 腸の動きの悪い方等は特に気をつけている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・入浴日の間が開かないように注意してお誘いしている ・受診や職員の人数等で限られる事もあるが、出来る限りお一人お一人の希望に副って入って頂ける様に努めている	週に2、3回の入浴を支援している。事業所内の浴室の湯は温泉であり、毎日利用者ごとに湯を入れ替えている。利用者の希望があれば同性介助も対応している。入浴拒否の場合は、職員が代わって声を掛けたり、時間を置いたり工夫し、入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	前日の睡眠の状況や、お一人お一人の体力の状態、その時だけの状態で判断せず前日や当日の睡眠を考慮して臥床や午睡をして頂いたり、起きて頂く工夫をしたり対応している 又、人の気配の中で安眠できる方の為にリビングにソファベッドを設置し時と場合により使用して頂いている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診には職員が同行し、医師への報告や相談、医師からの指示等をきちんと記録し、全職員が周知する様に努めているが、職員の理解力には斑があり対応する内容を全員一律とはできていない		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・お一人お一人ができる事を楽しみながら、又気分転換しながら作業などして下さっている ・長く農業をしてこられた入居者様の為、プランター農園を作り土に触れる事で落ち着いて頂いた		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物・ご自宅・リハビリ・ドライブ・ラジオ体操・お祭り・チャリティイベント・ロビーコンサート等々、入居者様からの希望に副ったり出来る限りお誘いしたりして、短時間でもなるべくお連れし、地域の方との交流も図っている	利用者は職員と近所に回覧板を渡したり、買い物に出掛けている。病院受診の帰りに散歩やドライブすることもある。また自宅に寄る支援も行っている。隣接する旅館では音楽や芝居のイベントがあり、招待を受けて出掛けるなど、職員は利用者が戸外へ出ることが楽しみとなるよう支援している。	

おばま温泉グループホーム湯之崎（ユニットえびす）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身での管理を希望されている方は、使用される額や支払いの際等、充分気をつけて支援している 個人専用のケースをお一人お一人に準備し金庫保管し出納帳に都度記入、毎月ご家族様やご本人様に確認して頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様からプレゼントやお手紙・はがき等が届いた時は、お礼の電話や手紙を書いて頂く支援を行っている 遠方で何年も会えていない娘様と、はがきのやり取りをする様になられた入居者様もおられ、ご家族様も喜ばれている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然の光や風が取り込みにくい居室や空間等は、季節や気温に応じ窓を開けたり冷暖房を上手く利用し、違和感を感じられない様工夫をしている 特に消臭に気をつけており、ポータブルトイレを置かせて頂いている居室内は特に臭いがこもらない様気をつけている	和を基調とした造りは懐かしい雰囲気である。リビングは、各ユニットの利用者が活動しやすいように、ソファやダイニングテーブルセットの位置を検討し配置している。利用者の作品や季節感のある小物を飾り、利用者との会話のきっかけとなっている。職員が換気、清掃をしており、感染対策も取り入れ快適な環境を整えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	好きな時に好きな場所を使用して頂ける様、玄関・リビング・居室内等に椅子やソファ・ソファベッドを点在させている 隣ユニットの入居者様とも行き来され、会話や歌を歌って楽しく過ごされている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用されていた家具・寝具等持って来て頂いたり、写真やご家族様からのメッセージカード等を飾って居心地よい空間作りをしている 扉のすりガラスからの光が気になる方には、光が入らない様にしたり、帰宅願望のある方の居室内にご家族様と写った写真を飾ったりしている	居室は、利用者が寛いで過ごせるように馴染みの家具や小物など、自由に持ち込んでいる。テレビや仏壇、手芸作品や写真など様々あり、個性的である。ベッドや調度品の配置、目隠しなど利用者の視点で、希望を取り入れている。職員が清掃、換気し、快適な居室を提供している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	どこに行くか迷われる方には常に声かけを行い、居室やトイレ等の表示を確認して頂く様にし、見守りや介助にて混乱や失敗を防ぐ工夫をしている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4292400050		
法人名	株式会社グループホーム湯之崎		
事業所名	おばま温泉グループホーム湯之崎（ユニットほてい）		
所在地	〒854-0514 雲仙市小浜町北本町字湯之崎905番地32		
自己評価作成日	平成26年11月19日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・入居者様の今出来ている事（残存機能）を維持する為、調理作業等の軽作業は積極的に入居者様と共に行うようにしている ・入居者様の体調管理は常に行っており、定期受診の他にも特変等あった場合は即座に対応・緊急受診を行う様にしている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念があり、玄関にそれが掲示、いつでも閲覧・確認できる様にしてある		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭り等のイベントには入居者様と共に見物に行っており、又ホームにて餅つき大会のイベントを行う際は、近隣の住民の方々へ参加の呼びかけを行っている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の学校や障がい者の方の作業所から依頼があった時は、職場体験の実習の場を提供しており、実習に来られた方々にグループホームの事や当ホームの様子を知って頂ける様努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様の近況やイベントの予定等を報告している 又、会議の内容はミーティング時等に職員全員へ報告行い、現場に活かす様にしている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護受給されている入居者様も多く、必要書類の対応・様々な相談等協力頂いている 又、地域のケア会議には極力出席し、少しでも多くの方と顔見知りになる様努めている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	居室内での時間はお一人の場合が殆どであり、起き上がりや歩行に危険のある方には安全の為、ご家族様に説明し同意を頂いた上でセンサーの使用を行っている 又研修に参加し、身体拘束についての知識を得る様努めている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に行われている研修に職員も持ち回りで参加、出来る限り全員が学ぶ機会を持つ様にしている		

おばま温泉グループホーム湯之崎（ユニットほてい）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在県社会福祉協議会の日常生活自立支援事業を利用されている入居者様もおられ、制度に対する理解を深めていき、今後も全員で入居者様に必要な制度について学びたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	この一年間で、3名の方の入居と1名の方の退去があり、契約にはお忙しい中時間をとって頂き、又キーパーソンが知的障害のある息子様の場合は親戚の方にも同席頂き説明させて頂いた		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様来設時に意見・要望などがあればお聞きする様心がけているが、それらが運営に反映されるというまでには至っていない		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング・申し送りなど意見交換の場は設けられてはいるが、職員からの提案は少なく、反映しようにも出来ない場合が多い		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境の整備・改善は常に努めてはいるが、現場の一日一日が精一杯の職員が多く、やりがいや向上心を前面に押し出してくる雰囲気は見られない		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会の参加呼びかけは常に行っているが、先ずは職員一人ひとりの意識を高める必要がある事は否めない ケアの力量のみならず、一社会人・組織に属する一職員としての自覚を全員が持つ事の重要性を知らしめる事も必要		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	イベントなどに積極的に参加し同業者の方との交流の場を作る様にしている 特に島原半島グループホーム対抗風船バレー大会は準備から当日、更には反省会や慰労会と親交を深めるには大変よい機会であり、成長させてもらえる場である		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様やご家族様に止まらず、面会に来られる親類や友人の方々へ出来るだけお聞きし、少しでも多く情報収集できる様努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様来設時などはご本人様も含め要望をお聞き出来るだけ対応する様心がけている その結果、在宅の際は受診や通リハに連れて行けなかったから入居後はお願いしたいと要望あり、実施に向け支援行い喜ばれている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	近況報告等での様な生活をされ何を必要とされているかを報告させて頂いた後、ご家族様からの希望などを伺う様にしている 在宅にて不衛生な中でできた皮膚疾患を少しずつ受診へ結びつけ、日々きれいになる実感をご自身でも感じられ現在喜んで頂いている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	炊事・洗濯など作業を共に行い、又ご家族様からの頂き物などをおすそ分けする際も一緒に行うなど、職員も家族の一員として受け入れて頂ける様な関係作りに努めている		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	イベントなどへの参加声かけを積極的に行い、『共に支え合う』関係を築ける様心がけている 少しずつ変化する入居者様の身体状況や精神状況などをつぶさに報告し、共に変化を見届けて頂ける様に環境を整える努力をしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的に外出される方もあり、ほぼご本人様やご家族様からの要望に副って対応している 帰宅願望の出現を恐れてご自宅への外出を避けてこられたご家族様に、フォロー申し出た事で勇気を出して帰宅を遂げられた事もあった		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	時には職員が間に入り入居者様同士の関係を深めて頂ける様取り持ったり、誤解やトラブルが生じない様に努めている 又、落ち着かれない入居者様の近くに居て頂き話し相手になって頂いたりし、和まれる事も多々あっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院により退去となられた場合、入院先へ入居者様と共にお見舞いに行ったり、出来る限り退去後の協力をさせて頂いている 又亡くなられた際も出来る限りの支援を申し出ている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段と違う発言や行動に気づいた時には入居者様のお気持ちや希望を伺う為に傾聴する 意向の把握が困難な方の場合は、ご家族様と話し合う為、本人本位かどうかは判らない場合もある		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際、出来る限り幅広く生活歴を尋ねる様にしている 又生活の中での会話や入居者様より教えて下さる事を把握する様努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックの実施、入浴時の身体の観察、食事量・排泄の状態、表情や発言等から見る精神状態、その日にして下さった作業内容等、一日毎の生活を申し送りにて把握できている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個人別に担当者を決めており、細やかな個々の理解に努め、必要に応じてご家族様へ相談し意見をお聞きしながら、月に1回のミーティングや日々の申し送りを行っているが漏れも多い		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人日誌・ホーム日誌へ記入している 特変や受診内容については両方の日誌や受診録へ詳細を記し、申し送りにて伝達行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物へ行きたい・連れて行って欲しいというご本人様やご家族様の要望にお応えしたり、隣の旅館よりお誘いがあり津軽三味線のロビーコンサートへ出かけられたり、場合によっては外泊のご希望等対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買物や散髪などご家族様や職員対応にて外出されたり、月に一度銀行へ同行し入居料やお小遣いの払い戻しをご自身に記入して頂ける様フォローしたりしている 又一度、過去の問題で悩まれていた方と共に支所内の法テラスへ同行し、解決に導く支援をした事もあった		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	怪我や新たな疾患を発症した場合ご家族様へ報告・相談を行い、その結果受診となった際は職員にて対応させて頂いている しかし、負傷の具合からかかりつけ医とは別の医療機関を選択した事でご家族様からご指摘を受ける経緯があり、後で説明と謝罪を行い、今後もご家族様との密な連携の必要性を改めて肝に銘じる機会となった		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化等の情報は訪問看護師へ報告を行っている 必要に応じて定期受診を早めたり、受診へ至ったりと、指示やアドバイスを頂いている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期受診では医師と入居者様が少しでも会話をして頂くことで、早期に異変に気付いて頂ける様にしている 入院の際は頻回に訪問し、早期退院できる様医療機関と連携をとっている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りとなる場合など、入居時に充分説明させて頂いている ご家族様やご本人様がホームでの看取りを希望された時には主治医・ご家族様との話し合いの上、出来る限りの事を協力させて頂く 正社員はエンゼルケアについて学習済みである		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	市のGH連絡協議会主催の消防署員指導による普通救命講習への参加を行っている しかし、新しい職員もあり、事故や急変の際の対応等全職員が出来る様にする必要がある		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回消防署員立会いの下避難訓練を行っている 又安心カード（生年月日・名前・血液型）を作成しており、緊急時に使える様にする		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の居室へ入る際は一声かけて了解を頂いたり、一緒に入室する様にしている 又入居者様同士の会話等でストレートな言葉をぶつけられたりした際は間に入り説明行ったりしている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	退去者の方の善意で頂いた衣類を皆様で分ける時などはそれぞれに好みの物に手を出されていた 又やさしく声かけ行い、入居者様の思いを聴きながら話し易い状況を作る様に心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様が今何をされたいのかよく聴きながら、どうしても対応できない場合はその理由とどの位待って頂くかなどをきちんと説明行い、出来る限り対応できる努力をしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身でできる方はご自身で、できない方は洗面台へお連れして鏡を見て頂きながら櫛をお渡ししたり、職員が行ったりしている 洗面台には寝癖直しやハンドクリーム、マニキュアなど置きいつでも自由に使用できる様にしている 男性入居者様には誕生日に電気剃刀をプレゼントし、使い方を少しずつ覚えて頂きご自身でできる様にお手伝いしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	時計を見て食事の時間を意識して頂き、一緒に食事の準備や盛り付けを会話をしながら手伝って頂く、又可能な方はご自分の食器を下膳して頂き、食器洗いをして頂いたりしている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は充分か、常に見守り声かけ行っている 入居前の習慣に応じると皆様脱水になられる為、入居後の習慣として朝夕にお好きな飲物を摂取して頂き、すっかり習慣になられている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に必ず洗面台へお連れして口腔ケアして頂き、終了後職員にて口の中の観察行っている		

おばま温泉グループホーム湯之崎（ユニットほてい）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレへ行かれる際、見守りの方、介助や支援が必要な方、ご自身でできる事はして頂いている 普段は必要ないが外出時のみリハビリパンツ使用して頂いたり、失禁が出始めたらパッド使用のタイミング等を検討している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は繊維の多いメニューを考え、水分を多めに摂って頂き、その結果の排便チェックを行って薬の調節をしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	少なくとも1週間に2～3回入って頂ける様声かけ行い、会話しながら楽しく入浴して頂いている しかし入って頂ける様に声かけの工夫がどうしても必要な拒否のある方もおられ、課題となっている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間ぐっすり安眠して頂く為に、日中はなるべく傾眠されない様に作業などをお願いしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時に同行した職員が医師からの指示を聞いて持ち帰り、申し送りにて他職員へ内容を伝え、間違いなく服薬支援できる様に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人お一人のお好きな事や得意な事を引き出しながら、調理の手伝いや掃除・洗濯の作業などをして頂いている 又カルタやトランプ・お手玉など職員と一緒に楽しまれたり、饅頭やおはぎを全員で作り、食べたりして喜ばれている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個人に必要な買い物がある場合は気分転換も兼ね、一緒に外出して頂いている ご家族様と月に一度は外食をと出かけられたり、地域の祭りやイベントには必ずお連れする様にしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様のご希望や必要に応じて買い物や銀行への同行行っている 盗られ妄想へと発展しない様に気をつけながら、財布の所持をお任せしたり小銭を持ちたい要求に応じたりしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方のご家族様から便りが届いた時は、返事の手紙を書く手伝いをしたり、年賀状を書きたい方には購入や投函の手伝いをしたりしている 電話はかけたりかかってきたりをいつでも自由にして頂いている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体的に寒がりの方が多いので、年間通して温度は入居者様に合わせる様に心がけ、それでも寒いと言われる方には膝掛けや上着にて調節行っている 又入居者様が飾られたりご家族様から贈られた花などで和んだりされている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	新しい入居者様が入られるとその都度食事の席を検討し、入居者様方のご意見を伺って移動して頂いたりしている 同様にソファにおいてもその時々により思い思いに座られ隣の方と会話をされている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご家族様の写真等を飾ったり、仏壇やご位牌等を祀られている方には仏飯とお茶、供え物等の支援をしている 退去者が出た際、以前より居室変更希望のあった方に提案した所強く希望され居室移動の支援をし、その後も混乱なく大変喜ばれた		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	夜間居室内にて転倒され頭部を打たれた方には、ご本人様やご家族様に了承頂きリビングに簡易的にベッド設置し休んで頂いておりトイレが近くなったと喜ばれている 他にも居室内での転倒があればそれぞれに安全策を練りそれぞれに対応している		